

2月26日(日)

新習志野公民館で 習志野はじめての講談会



田辺鶴遊 昭和53年11月17日、名古屋生まれの静岡育ち。芸能社経営の父親が企画したイベントへの出演をきっかけに子どもタレントに。62年田辺一鶴に師事。63年1月11日上野・本牧亭で田辺チビ鶴(ちびかく)として初高座。一鶴さん没後、宝井駿之介に。平成27年3月田辺鶴遊として真打披露。

田辺一鶴さんは「きらこ」創刊記念パーティーに応援に駆けつけてくださいました。誌面には第一号からおじくになりになるまで寄稿。「このままでは講談はほろびてしまう」と、女・子ども・外国人にも講談を指導した一鶴さん。その愛弟子のひとりが田辺鶴遊さんです。

聴き始めると
おもしろくておもしろくて…

私は昭和55年8月に東京早稲田から習志野市秋津に引越して来ました。子ども達4人は秋津小学校、第七中学校を経て、それぞれ独立し、現在は女房と2人暮らし。昭和46年9月にお茶の水で小さな飲食店「太陽」を開業し現在も頑張つて子どもと2人で営業しています。

開業して45年になることを記念して平成28年8月4日から13日まで、10日間の連続寄席を開催しました。

以前から落語、浪曲、漫才等がよく聴いていましたが、7年前に本牧亭(常設の講釈場で今は閉館)の女将の清水孝子さんと知り合いになり、それがきっかけに講談を聴くようになりました。

聴き始めるとおもしろくておもしろくて聴くだけでは飽き足らず、今では講談会・落語会を毎月5回から6回開催するまでになっております。それで講師の

田辺鶴遊さんとも知り合い、店にもよく飲みに来て頂いています。

ある時鶴遊さんが私が習志野に住んでいることを知るとタウン誌「KIRACO」に毎回原稿を書いているとのことだったので、早速新習志野図書館で読み、編集室が私の住んでいる秋津隣の香澄にあることを知りました。知り合った鶴遊さんが連載する「KIRACO」の編集室が香澄。私が住んでいるのが秋津。「KIRACO」を読んだ新習志野図書館。色々なご縁を感じています。

そこでみなさまに喜んでもらおうと思いい、新習志野公民館で講談会を催すことに決めました。出演者は田辺鶴遊さんと一龍齋貞奈(前座)さん。この会は2回から3回と未永く続けて行きたいと思っておりますので、たくさんの方の御参加をお待ちしています。

習志野はじめての講談会

日時 2月26日(日) 13時(15分前開場)
場所 新習志野公民館2階多目的室
木戸銭 一〇〇〇円

習志野はじめての講談会
世話人代表 深川忠生(秋津)

